〇地域再生マネージャーによるコメント

平成 16 年度

藤原町地域再生マネージャー業務委託

平成 17 年 3 月

㈱　乃村工藝社

（空間デザイン業務担当）

「鬼怒川温泉における景観的な課題」

（計画案および景観に対するコメント）

1　駅前広場エリア

1.1　鬼怒川温泉駅前の景観的印象

駅前広場の景観整備における要点は、利用者（観光客）の視点です。１５０ｍ×５０ｍ、特に７０ｍ×５０ｍの駅前広場に降り立った観光客の視線の先には何が見えるか、正面の公共建物、広場に隣接する店舗、そして高層旅館。温泉街のイメージを期待する観光客にとって、あまりにも日常的で魅力がない。

1.2　駅前広場の植栽の考え方

現実的な景観向上への対策として、広場に高木を植栽することを薦める。高木植栽で広場周囲の建物の景観を制御する方法とする。交通車両運行上の安全確保の配慮及び観光客から店先が良く見えるよう植栽する。低木や中木類は目線をさえぎる効果があることから背後の景観を隠すことができる。効果的な配置を行い、遠景の山並みと近景のオブジェや彫刻そして石畳等とともに活かし、中景の駅前広場周囲の雑然とした建物群及び文化会館の殺風景なフォルムを植栽でカムフラージュする方法がある。

1.3　文化会館の四角い（陸屋根）建物は風情がない。

1.3.1 観光客の利用施設とした考えもあるのでは。

1.3.2 植栽を植えることで、建物が目立たないように配慮する。

2　駅舎について

2.1　駅舎のﾃﾞｻﾞｲﾝに温泉町の風情がない。

駅そのものが景観を構成する重要な施設。鬼怒川温泉にふさわしい風情のある木造駅舎等に整備、サービス施設としての観光案内所も、駅前広場が狭いことから駅舎と一体に整備すべきと考える。参考：千葉県館山駅整備の事例（行政が事業主体として参加）

3　駅前エリア整備計画案について

3.1　最新の駅前広場案は都市型の駅前広場イメージとなっており、利用者が鬼怒川温泉に抱く、地方の温泉地といった寛ぎや和といったイメージが感じられない。

3.2　イベント広場

3.2.1 イベント広場の活用計画は？年間どのような内容で使うのか？

・そのための設備は可能か

3.2.2 イベント広場の舗装材は石？

3.3　広場北側の大きなサインは必要か？（場合によっては景観を悪くする要因となるが）

3.4　フードコートは誰のため？（具体的にどのような利用の方法を考えているのか？）

3.5　布滝は飲める水となればよいが（大分県道の駅やよいでは、泉の水は集客の要素

となっている）

3.6　家族で写真が撮れる場所がほしい。

3.6.1 数十年後も変わらない場所が必要。子供が孫を連れて同じ場所で写真を撮る場、家族の歴史を証明する鬼怒川温泉となれるような環境を造ってはどうか。

3.7　足湯のためのブースも景観的には問題。

足湯は気軽に楽しめ、効能もあることから人気があるが、駅前広場の現状の空間を考えた時、更衣室等の建物を広場に設置すべきではない。広場には、観光記念写真の撮影スポットや鬼怒川の温泉に触れられる施設があれば十分と考える。

4　街並み景観の現況

4.1　橋から見える鬼怒川の清流の流れは魅力的であるが、すぐ横に見える温泉街の空きホテルの景観が観光の気分を壊している。

4.2　空き店舗が景観を悪化させている。

4.3　ホテル敷地内はきれいに管理されているが、目の前の植栽帯、道路等の管理がされてなく汚い。桜並木の植栽周りは雑草が多くサツキも踏みつけられている。「我が町の大切な桜」として愛情が感じられない。

4.4　ホテルの高さも不ぞろいで、遠景の山並みを遮るように、高い建物が建っており温泉地らしさを感じさせる風情がない。

4.5　駅前の街路空間から鬼怒川下りの船着場までの道、建物、河川景観、いずれも温泉街らしさ、観光地としての街並みの情緒や風情がない。あまりに日常的な道路であり、プレファブ的な建築物が並んでいる。

4.6　桜並木通りの灯篭は、手作りの良さはあるが、景観的な魅力づくりに貢献しているかというと疑問が残る。ﾃﾞｻﾞｲﾝ等や実施の体制等の再考が必用。

4.7　観光客が歩く道筋の店構えに工夫が必要、店先に岩や植栽で自然を演出するとか、土壁や石積、水鉢や寄せ植えを利用して自然な風情を演出する。

4.8　街路灯もﾃﾞｻﾞｲﾝがばらばらで統一感がない。

4.9　ホテルのそばに自販機等が設置されているが色が原色で、観光気分を害する効果となっている。

5　効果的に景観イメージを向上させるために

5.1　景観的な規制を設ける

5.1.1 建物の用途をそろえる。

・旅館と従業員宿舎はゾーンが別れているが、旅館やホテルの玄関周りに日常的な店舗やアパートがあっては観光イメージが壊れる。また、ホテルの入り口に日常の電器店があったりと温泉地らしさの風情がない。計画的に観光景観エリアを構築するために、業種業態を入れ替えるなどのゾーニング手法が必要。

5.1.2 建築外観に制限を設ける。

・景観制限に関する内容について、市民にわかりやすく説明するとともに、市民の積極的な参加が必要である。

6　空き店舗の活用

空き店舗は、温泉街エリアの中心に位置し、観光客に対して景観的にマイナスイメージを提供している。現在、ふれあい広場等の活用もあるが、ＮＰＯや公益的組織の活用など戦略的に活用し運営していくことが必要である。

6.1　見て楽しいお店・情報提供

① なつかしの喫茶店（観光協会・ＮＰＯ等が運営）大正ロマンのレトロ喫茶店
② 健康食品専門の店（自然食等の情報提供と販売）
③ 駄菓子屋（埼玉県川越市の菓子屋横丁にあるようなお店、観光客、特に子供に人気、景観的にも鬼怒川温泉の持つイメージとマッチする。）日帰り客に対応した施設。
④ 郷土ふるさと館（鬼怒川温泉や地元の銅鉱山の歴史・展示物を紹介）
⑤ マッサージ店
⑥ 味噌工房ショップ
⑦ 染物体験工房
⑧ 木工の体験・見学ができる工房
⑨ お宝ミュージアム（展示販売）※場合によっては、ＮＰＯ運営
⑩ リサイクルショップ（家具、着物、洋服、玩具、家電、CD レコード、趣味のもの）

6.2　イベント的な活用

① 例：ひな祭り展示等の季節性の演出活用
② フリーマーケット（イベント的な活用）
③ 骨董まつり会場として、民間事業者に賃借
④ 山野草まつりの会場として
⑤ 紙すき等のクラフト体験会場として

7　歩道バリアフリー化について

7.1　歩道の巾が狭いため、排水側溝の仕上げも考慮が必要。化粧蓋にして舗装仕様をあわせる等々の工夫が必要である。

7.2　目の不自由な人への配慮として、歩道をカラー舗装とするより、車道のアスファルト舗装（黒舗装）に対して、歩道は脱色アスファルト舗装（黄土色）や透水コンクリート舗装（白色）など明度の差を際立たせる素材を使用するのがよい。

7.3　整備計画案のような派手なオレンジ色等のカラー舗装化は、新たな景観的な問題となる。

7.4　道路の段差解消に関する改修費用は高額となり、障害者利用の利便性の向上に必要なことであるが、観光客誘致のためのコスト対効果を考慮すると整備の優先順位は低いと考えられる。実施する場合は、工事区間に優先順位をつけての整備が必要。

7.5　車道を走行する車の速度抑制により、歩行者空間の安全に配慮する。車道をでこ

ぼこの石張りにするのも一つの方法です。できることなら地元産の石を選んでほしい。

8　電線地中化について

8.1　電線地中化等の街路景観整備と、店舗や旅館の店構えを個性化する等の街並み景観整備、両方の整備により、鬼怒川の温泉街らしさが形成される。温泉の風情を印象的に演出するものは、掛け流し湯のオブジェ、鬼怒川温泉のイメージにある和の良質なデザインストリートファニチャ、芸術家の彫刻、ポケットパーク等々。

8.2　狭い歩道に電信柱があるのは歩行者、自転車利用者にとって不便であり、安全性に欠ける。

8.3　電信柱や電線が街路空間の景観を阻害している。観光地としての夢の空間に日常的な生活を呼び起こす電線電柱は可能な限り地中化を目指す。実施する場合は、財源やコスト対効果の観点から優先順位をつけての整備となる。

9　河川遊歩道について

9.1　下流域の遊歩道について

① 河床からの景観も迫力があっておもしろい。

② 岩の崩落を防ぐため、崖上部の整備、不透水化が必要となり、雨水排水整備が必要となる。

③ 自然の岩の配置にあわせて遊歩道のルートを設定する。

④ 手摺等の人工物は最小限とする。

⑤ 河床から見上げる旅館の裏方部分、排水放流箇所は化粧が必要。岩が汚れている。

⑥ 河床に下りる遊歩道に接する放棄された施設群は、撤去、整地、耕運、低木地被植栽、遊歩道案内サイン等の整備が必要。

⑦ ダムの放流に対する警報設備、避難設備等の整備が必要。

⑧ 転落事故に対する連絡体制・救助体制等の確立が必要。

9.2　上流域の遊歩道について

① 河床の展望台からの渓流の迫力はすばらしい。

② 隣接旅館からの排水経路の化粧等整備が必要。

③ さらに上流の河川整備による遊歩道に接続可能。

④ 温泉の配管？を丸太と粗朶（そだ）等で囲う修景が必要となる。

⑤ 自然の岩の配置にあわせて遊歩道のルートを設定する。

⑥ 手摺等の人工物は最小限とする。

⑦ 遊歩道ルートの伐採時に、実生の山桜等の木は大事にするとよい。

9.3　最上流域

① オートキャンプ場付近の対岸にある砂防ダム、その擁壁に修景が必要。下垂性のツタ類の植栽等。

② 広い河床の水辺まで飛石が続いて歩くことができるのは楽しい。

③ 課題としては、立地条件から公共の駐車場整備が課題となる。

9.4　吊橋及び遊歩道（南側エリア）

① すばらしい渓谷景観を楽しめるが、周遊遊歩道としては、距離がありすぎないか、検討が必要。

② 当エリア周辺の利用者が少ないことが想定され、事業の優先順位を検討すべきと考える。

③ １００ｍの吊橋を架ける位置は、橋台設置の基礎的技術条件のほか、景観計画上、左岸側の道路遊歩道からも見渡すことができるよう検討が必要。

④ 右岸側は普段人通りが少ないので、防犯対策の配慮が必用。

9.5　花の山遊歩道

ロープウェイ周辺及びロープウェイから見える林床に芝桜等の地被園芸種を植える計画となっているが、ミツバツツジやナナカマドのような山の植物相にあった植物を選定したほうがよい。

10 その他

10.1 鬼怒川温泉の山側を流れる用水が常時使用可能であれば、ホタルの里を創ることも可能か。

10.2 レトロな雰囲気、鬼怒川が賑わっていた「昭和初期の街並み」を演出する試みが提案されているが、全国に同じような取り組みをしている観光地や市町村が多い。鬼怒川は他の昭和を再現する町とは異なった「昭和のレトロ温泉街」、あるいは「昭和の鉱山温泉街」等の特徴を強く観光客にアピールする必要がある。

10.3 事例紹介：東京都青梅市

10.3.1　青梅市の住江町商店街には、商店街活性化のため、映画の手書き絵看板が飾られ、昭和の生活雑貨を集めた「昭和レトロ商品博物館」、漫画家の赤塚不二夫さんにちなんだ「青梅赤塚不二夫会館」などがある。３月２日から「レトロステーション」として、青梅駅構内にも懐かしい手書きの映画看板や生活雑貨を展示し、昭和３０～４０年代の雰囲気を演出している。